資料1－1

県試験研究機関の機能充実及び効率化に向けた取組

アドバイザリー・ボード

試験研究機関のあり方や今後の方向、研究の狙い目や進め方等試験研究機関の業務全般についてアドバイスを行う。併せて専門的識見から研究の価値等について評価するピアレビュー機能を果たす。（各専門分野の外部有識者２３名）

研究評価委員会

各部局で実施されていたものを一元化し、部局横断的な外部評価を行うシステムを構築。研究課題の優劣等について総合的な評価を実施。
（学識経験者など８名）

部局横断的予算調整

従来の業種、分野、産業区分を越えた分野融合のプロジェクトなどに対応し、新しい価値や技術を生み出すための研究の芽だしと実効性の高い芽の選択や育成を行い、狙い目に対する投資の重点化を図る。

指導・助言 ／ 指導・助言 ／ 指導・助言 ／ 評　価 ／ 指導・助言

研究者・研究機関 → 研究計画 → 研究者提案（プレゼン） → 重点化 効率化 → 課題化（予算化） → 研究実施

フィードバック

事後評価

指導・助言

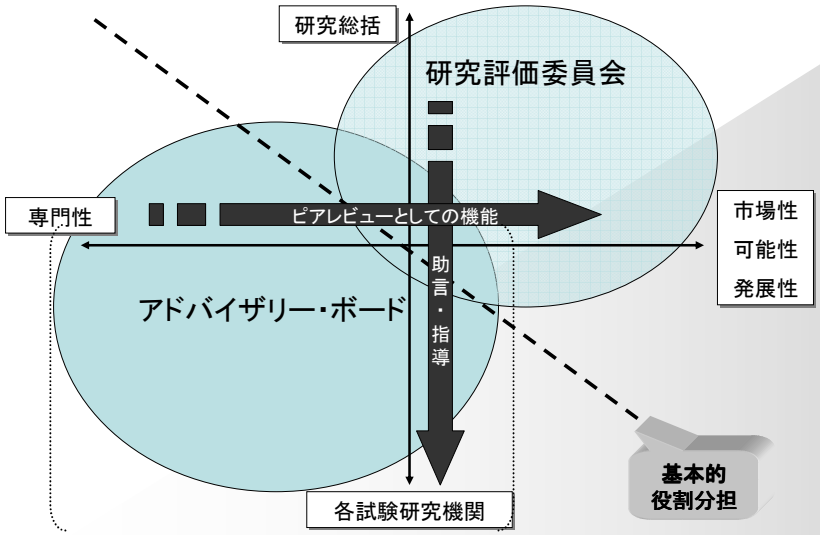
成果の顕彰

県の若手研究者（40 歳未満）を科学技術奨励賞の対象に加え、優れた研究者などを顕彰するとともに、優秀研究課題を選考し、知事等の前で発表する機会を設けることなどにより、若手研究者の研究意欲の向上を図る。

知的財産の創出と適正管理

知的財産の一元管理による特許等の適正管理を行うとともに、県知的財産管理審査委員会（知財等の外部有識者５名）の専門的意見を踏まえながら、研究成果等本県の知的財産の戦略的な創出・活用を図る。

研究評価委員会とアドバイザリー･ボード役割分担



新しい価値や技術・産業の創出に貢献できる試験研究機関・研究者